

医学部附属病院

地域肝炎コーディネーター研修終了者の活動支援と肝炎診療ネットワークの構築

担当学部等 医学部附属病院

担当学科等 肝疾患センター

担当者 山田 正信 教授・柿崎 暁 講師・堀口 昇男 助教

◎事業概要

B型・C型肝炎を含む肝炎ウイルスは国内最大規模の感染症である。自覚症状に乏しく、肝硬変・肝臓がんへ進展してから発見されることも少なくない。近年、適切な治療法が開発され、早期に発見し治療することにより、病気の進展を防ぐことが出来るようになった。肝炎医療の均てん化、予防・早期発見の推進、研究の推進を主な目的に、本学附属病院は、群馬県より肝疾患診療連携拠点病院に指定されている。

平成23年度に本地域貢献事業の助成を得て、肝炎の啓発・患者支援を目的に「地域肝炎治療コーディネーター養成事業」を開始した。その後は、群馬県からの委託事業として、養成事業を継続し、平成25度末時点で248名(267回受講)のコーディネーターを養成した。養成研修も3年間経過し、研修修了者の活動評価が必要な時期に来ている。今回、コーディネーターの活動評価を行い、活動支援の方向性を検討する。

◎実施事業等

平成26年度地域肝炎治療コーディネーター養成研修会を、群馬県健康福祉部保健予防課との共催で行った。肝疾患診療専門医療機関の看護師、県及び県内市町村の肝炎対策担当者、企業の健康管理担当者などを対象に、平成27年1月22日と1月29日の2日にわたって、群馬県庁2階ビジターセンターにて開催した。2回で合計76名が受講し、講習終了後に、認定試験を行い、基準を満たしたものには、群馬県認定の修了証書を発行した。講習会の模様を撮影した写真を別掲する。

過年度の地域肝炎治療コーディネーター講習修了者248名に対し郵送で活動状況に関するアンケート調査を実施した。97名(39.1%)から回答が得られた。職種、活動状況、日常業務に占める肝疾患関連業務内容、業務時間に関しての情報が得られた。

◎期待される成果

今年度も、継続して地域肝炎治療コーディネーター養成研修会を開催し、76名の新規地域肝炎治療コーディネーターが終了認定を受けた。

アンケート調査により、地域肝炎治療コーディネーターの活動状況を把握できた。コーディネーターの職種は、保健師、看護師、薬剤師の順で、勤務先は、自治体、医療機関が大半を占めた。兼業が多く、日常業務に占める肝疾患関連業務は、週8時間未満が大半を占めたが、専属の者もいた。

個別の事例収集も行い、活動状況や相談業務での問題点が明らかになった。今後、地域肝炎コーディネーターをさらに効率的に、肝炎診療ネットワーク(肝疾患診療連携拠点病院・専門医療機関・かかりつけ医・保健所・職域を連携)に組み込むことにより、県内の肝疾患診療体制が充実することが期待される。